

付替県道設楽根羽線 一部暫定供用記念 ～トンネルで遊ぼう 遊べる建設企業展開催～

前川 和輝¹

¹ 中部地方整備局 設楽ダム工事事務所 工事課（〒441-1341 愛知県北設楽郡設楽町字田口川原田 1-2）

設楽ダム建設事業では、ダム本体工事と並行して付替道路整備を進めている。湛水する現道を付け替える付替道路整備は、一方で地域住民の生活再建対策として早期供用を強く要望されている中、令和5年10月27日に付替県道設楽根羽線が付替道路整備で初めて一部暫定供用した。

今回、一部暫定供用を記念し工事・業務受注者や地域の関係者と連携して開催した建設企業展をはじめとした、設楽ダム建設事業で行っている地域振興事業について紹介する。

キーワード 地域活性化, 地域コミュニケーション

1. はじめに 概要と進捗状況

(1) 設楽ダムの概要

設楽ダムは、愛知県東三河地方を流れる豊川水系豊川に建設中の重力式コンクリート形式の多目的ダムである。（表-1）

現在、工事は本体1期工事を契約しダム本体右岸部の掘削を行っており、国県町道4路線の付替工事も並行して進めている。（図-1）付替道路事業は各路線を合わせて5本のトンネルが貫通、9橋の橋梁が架設され、早期の供用を目指して進捗を図っている。

付替道路事業は、湛水する現道を付け替える一方で生活再建対策として地域からの強い要望もあり、ダム事業を進める上で地域とダム事業を繋ぐ重要な役割を担っている。

設楽ダム工事事務所は、ダム建設工事にとどまらず、「森・水・人が繋がる事業」として東三河地域豊川流域圏の活力ある地域づくりを目指すとともに、水源地域である設楽町が下流地域と共に豊かな地域となるように水源地域の振興にも取り組んでいる。

表-1 設楽ダムの諸元

項目	内容
形式	重力式コンクリートダム
目的	洪水調節 流水の正常な機能維持 灌漑用水や水道水の確保
堤高	129.0m
流域面積/湛水面積	62km ² /3km ²
総貯水容量	98,000千m ³

2. 付替県道設楽根羽線の暫定供用

(1) 付替県道設楽根羽線の概要

設楽根羽線は愛知県北設楽郡設楽町～長野県下伊那郡根羽村を結ぶ主要地方道である。設楽ダム事業に伴い湛水地に水没する起点から約3.2kmを付け替える。付替県道設楽根羽線は、8つの橋梁と1つのトンネルを含む約4.8kmの道路であり、平成25年に工事用道路に着工し早期供用を目指して施工を進めている。

現道設楽根羽線は設楽町田口地区と津具地区を繋ぐ生活道路として使われているが、自家用車のすれ違いも難しいほど狭隘な区間があり、地域の方々の移動に支障が生じている（図-2）。付替道路が完成することで、走行距離・時間の短縮や急カーブ、急勾配、狭小部が無くなり、倒木、落石、土砂崩れの可能性が減少するなど、走行性、安全性が向上する。（図-3）

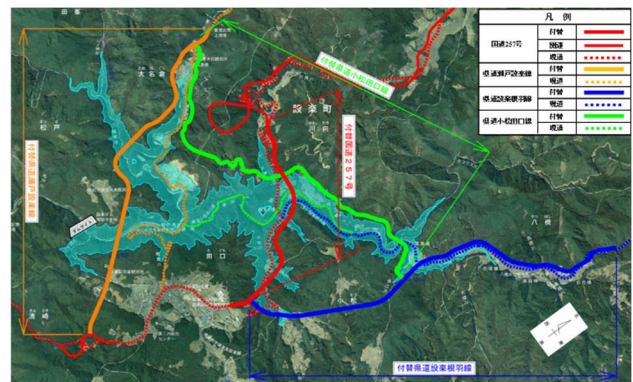


図-1 主要付替道路の概要



図-2 現道県道設楽根羽線の状況



図-5 暫定供用区間（空撮）



図-3 付替後のイメージ図

(2) 暫定供用区間とその効果

付替県道設楽根羽線は、令和5年10月27日に起点部からトンネル手前までの約740mを暫定供用した。（図-4、5）

主要な付替道路の4国県道で初めての供用であることから、設楽町が主催し走り初め式を行った。第1号の走行車であるオープンカーには、設楽町のマスコットキャラクターである「とましーなちゃん」が同乗し、地元住民とともに道路の完成を祝った。（図-6）

地域の方からは、「一部暫定供用したことで、とても便利になった」と喜びの声をいただいた。

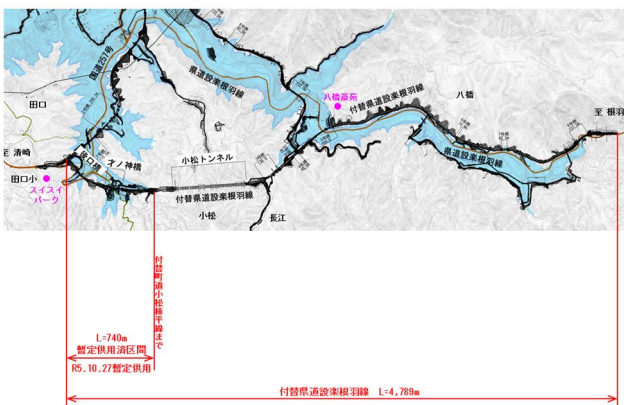


図-4 暫定供用区間



図-6 とましーなちゃんによる走り初め

3. 地域振興

(1) 設楽ダム建設事業で取り組む地域振興

地域振興をするうえで、水源地域である設楽町には「ダム及び付替道路等の周辺のインフラ整備」という機会があり、「豊富な自然資源」「森林資源活用のノウハウを持った人材や高い技術力を有する生産者の存在」といった強みがある一方で、「町内総生産の約1/2(想定)がダム需要」「過疎化や高齢化による担い手不足」のような弱みも抱えている。

地域振興の目指す先は、地域経済の持続・発展である。そのためには、「地域の価値を生み出す人材・企業を活用」「周辺地域と差別化できる、未利用資源による新しいサービスの創造」をすることで、設楽町の持つ強みを強化し活かしていく必要がある。

そのため、設楽ダムのスケールを最大限に活かし、企業交流、地域コミュニケーション、地域資源活用をキーワードに「ワクワクする」仕掛けを重視して取り組んでいる。

(2) トンネルで遊ぼう 遊べる建設企業展

付替道路事業を活用した地域振興の一環として、付替県道設楽根羽線の一部暫定供用を記念し、令和5年11月23日に「トンネルで遊ぼう 遊べる企業展」を付替県道設楽根羽線 小松トンネル(工事中・延長585m)で開催した。

工事・業務受注者や地域に出展を募って行うイベントは初めての試みであり、開催にあたっては設楽町観光協会等と共同で企画・運営を行った。工事受注者等の関係者と調整を行い、合意形成を諮った。結果、設楽ダム工事・業務受注者や地元商店・企業・団体、地元住民が様々なブースを出展した。計35ブース(192名)が出展され、地元商店による飲食(図-8)や工事受注者による建設機械のシミュレーション体験(図-9)など、多岐に渡り来場者を楽しませた。

当日は600名を超える来場者が訪れ、出展者も合わせて801名が集まり、盛況に終わることができた。

来場者からは、「普段建設業界に接する機会がない中、いろいろな体験コーナーがあってとても楽しかった。」「トンネルの先で、まだ架けられていない橋をバーチャルで見ることができ、目の前には橋の足しかないのに、画面では未来の橋が実際の景色に溶け込んでいて不思議な感覚であった。」などの声をいただいた。また、出展者(工事・業務受注者)からも、「普段住民の方や一般の方と直接接する機会が少ないので、多くの方と触れ合うことができる今回のイベントは、とても貴重な機会だった。」と、イベントを通じて出展者と地域の間で多くのコミュニケーションが図られた。



図-7 イベント会場



図-8 地元商店による飲食ブース



図-9 工事受注者によるシミュレーション体験

(3) そのほかの取り組み

今回は、付替県道設楽根羽線の一部暫定供用を記念して開催したが、令和6年9月28日には「アウトドアカレッジ×建設企業展」として、アウトドアの町を推進していく設楽町と設楽ダム工事の共催で開催する予定である。

他にも、「路線バス×まちあるき・ダム工事現場見学」では、路線バス(豊鉄バス田口新城線)を活用したまちあるき・設楽ダム工事現場見학을観光協会と共に実施した。令和5年度には計11回実施し、ふるさとガイドの案内とともに設楽町と設楽ダムのPRに加え、地域の基幹公共交通である豊鉄バスの利用促進を図った。

令和5年8月19日に開催した「工事現場でははたらくクルマ見学会」では、設楽ダム建設工事現場で活躍する建設機械の見学会を施工業者と協力して開催した。建設業に触れ合える機会を創出するとともに、観光協会と連携し周辺観光施設の周遊を促した。

4. 今後の展望

「トンネルで遊ぼう 遊べる建設企業展」では、600 名を超える来場者が訪れ、「路線バス×まちあるき・ダム工事現場見学」では令和 5 年度に 11 回開催するなど、設楽ダムと地域振興を掛け合わせたイベントは非常に盛り上がった。

多くの方が関心を持って参加していただき、これらのイベントからは一つの地域振興の在り方として、「設楽ダム(建設業)×地域振興」の可能性を確認することができた。

地域振興には、設楽ダム建設事業だけでなく地域との連携が必要不可欠である。ダム建設、付替道路事業を進めるとともに、建設事業と地域が連携した「設楽町ならではの」催しをこれからも企画・実施していく。